

研究・調査報告書

報告書番号	担当
26	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Risk Factors for the Development of Second Primary Tumors among men after Laryngeal and Hypopharyngeal carcinoma A multicentric European Study 喉頭がん・下咽頭がんの既往がある男性における 2 度目の原発性腫瘍発症の危険因子 ヨーロッパ多施設研究	
執筆者	
Rajesh P.Dikshit・Paolo Boffetta・Christine Bouchardy・Franco Merletti・ Paolo Crosignani・Teresa Cuchi・Eva Ardanaz・Paul Brennan	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer 2005 Jun 1;103(11):2326-33	
キーワード	
2 度目の原発性腫瘍・喉頭ガン・下咽頭ガン・標準化した発症率・タバコ・アルコール・栄養	
要 旨	
<p>頭頸部ガンの患者は 2 度目の原発性腫瘍に罹患する危険性が高いことはよく知られているが、具体的なデータはほとんどない。本研究では、1979 年から 1982 年に南ヨーロッパの 5 施設で実施されたケースコントロールスタディの対象者のうち、喉頭がんと下咽頭がんの 876 名の男性患者を 2 度目の発症まで追跡し、その標準化した発症率を計算した。1 度目の原発腫瘍発症前の喫煙・飲酒・栄養習慣に関連した 2 度目の発症の相対危険度を Cox 比例ハザードモデルで解析した。その結果、6782.8 人年の観察期間の間に 145 名(16.5%)が 2 度目の原発性腫瘍を発症した。年間の平均発症率は 2.1%だった。2 度目の原発性腫瘍は舌・口腔・食道・肺に多かったが、他の臓器ではリスクの増大は認めなかった。飲酒が上部呼吸器・消化器系の 2 度目の発症リスクを大きく増加させた。大量喫煙が肺の 2 度目の発症のリスクを増加させた。柑橘系のフルーツの摂取が肺の 2 度目の発症のリスクを減少させたが、大量のバター摂取は上部消化管の 2 度目の発症のリスクを増加させた。また、ビタミン C 大量摂取は 2 度目の発症をすべてのがん(相対危険度=0.5、95%信頼区間 0.3~0.8)、及び肺がん(相対危険度=0.3、95%信頼区間 0.09~0.7)で抑制した。</p>	